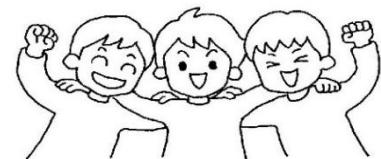


## 「ほかの子よりすごい」の 主語は「ほかの子」



こど看さんの著書『児童精神科の看護師が伝える子どもの傷つきやすいこころの守りかた』より、心ひかれた文章をご紹介します。

「ほかの子はできるよ？」と子どもに言った経験はありますか？私はもちろんありますし、その度に後悔して子どもに謝ってきました。この「ほかの子との比較」は子どもとのコミュニケーションで避けるべきことのひとつなのですが、なぜだかご存じでしょうか？

「ほかの子はできるよ？」という言葉の主語は「ほかの子」ですね。つまり、この言葉は目の前の子どもではなく、その子の周りの子どもたちを中心に考えられた言葉です。「このくらいしてもらわないと困る」といった大人の不安や焦りが漏れ出た言葉とも言えます。しかし、子どもからすれば、「あなたはほかの子よりできていない」という意味に受け取れる言葉もあり、「自分はダメだと自信を失わせる可能性を秘めています。

同じように、「ほかの子よりできているよ！」「ほかの子よりすごい」という肯定的な比較も避けるべきだと思います。



この言葉、表面的にはポジティブに聞こえますが、主語はやはり「その子の周りの子どもたち」です。子どもに「ほかの子よりがんばらなきゃいけない」というプレッシャーを与えかねません。

では、どうすればよいのでしょうか？簡単です。その子の「過去」と「今」を比較するのです。子どもが過去に比べてどれだけ成長したのか、どれだけ進歩したのか、どれだけがんばってきたのかを認め、ともに喜びましょう。「去年よりも野菜が食べられるようになった」「半年前よりも夜更かししなくなった」といったように、ほかの子どもを登場させることなく、その子の中で起きている成長を認めるのです。

そんな大人に対して、子どもは「この人は、自分をよく見てくれている」と安心を感じます。比較するのは目の前の子どもの「過去」と「現在」だけでいいのです。



いかかでしょう？「我が子」を主語に子育てしませんか。